

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)						
HH42P023	臨床心理実習B (Practical Training in Clinical Psychology B)					心理関連科目群						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	2	大学院福祉健康科学研究科	通年		氏名 武内珠美、渡邊巨、溝口剛、河野伸子、池永恵美、飯田法子 E-mail m-ikenaga@oita-u.ac.jp 内線 6107						
授業の概要	心理教育相談室(学内実習施設)において具体的な心理支援の実践を学ぶ。特に、「臨床心理実習A」で行った心理支援や検査について、スーパービジョンやカンファレンスなど、多様かつ綿密な指導を受け、心理学的理解や支援の実践に関してより適切で高度なスキルを身につける。また、自らの課題を発見し、その解決に向けて取り組みを重ねる。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1 2 3 4 5 6 7 8 9 10						
目標1	心理支援や検査の実施について、より高度で実践的な内容を身につける。											
目標2	対象者の状態や問題の性質、置かれた環境の特徴などを総合的に検討し、真に必要な心理支援について考えることができる。											
目標3	自らの課題に気づき、その解決に向けて取り組むことができる。											
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容	1 オリエンテーション(指導の意味とシステム) 2 アセスメント・見立てに関する指導1(電話対応) 3 アセスメント・見立てに関する指導2(面接) 4 アセスメント・見立てに関する指導3(心理検査) 5 心理面接に関する指導1(導入・初期) 6 心理面接に関する指導2(展開・中期) 7 心理面接に関する指導3(終結・後期) 8 心理面接に関する指導4(助言、指導、ガイダンス) 9 チームアプローチに関する指導 10 他職種連携・地域連携に関する指導 11 事例検討1(事例発表) 12 事例検討2(事例検討) 13 経験者による支援実践への陪席 14 自らの課題に気づく 15 まとめ(省察及び成果と課題の明確化)											
ラック ニ ン グ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	口頭試問、体験活動、陪席、学生の過去の体験との紐づけ、調べ学修(文献、インターネット)、Moodleの活用、発表、ディスカッション、相互教授、学びの省察、共同執筆、ロールプレイ、事例研究、心理教育相談室での実習	工夫 その 他の	「履修ガイド」や学習支援システム(moodle)を積極的に活用し、学習の成果と課題を明確にしつつ、系統的に学びを積み上げていくことを助ける。								
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修 事後学修	担当ケースの問題の見立てや支援方略の策定に関連した調べ学修。先調べ学修及び担当ケースの状態等に基づく、問題の見立てや支援方略の策定。使用する可能性のある心理検査の実施法の修得。その他、実習において指示する。(1回あたり120分) 各セッションにおけるケース記録。心理検査報告書。その他、実習において指示する。(1回あたり120分)										
教科書	「新版 心理臨床家の手引き」 鐘幹八郎ほか 誠信書房											
参考書	実習において指示する。											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	上記内容への取り組み	50%										
	最終試験(レポート25%、口述試験25%)	50%										
注意事項	受講は臨床心理学コースの大学院生で、臨床心理士受験資格取得のための必修科目(一年次開講のもの)の全ての単位を取得した者に限る。											
備考	この科目は臨床心理士受験資格取得のための必修科目である。											
リンク	URL											

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	公認心理師、臨床心理士
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無	
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	公認心理師、臨床心理士